
神話なう。

華桜 蓮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神話なう。

【Zコード】

Z5489Y

【作者名】

華桜 蓮

【あらすじ】

水羽高校に通う「よく普通の女子校生、桜月天音は、ある日空から突然降ってきた一本の喋る剣によって、それはもう色々様々な事に巻き込まれていきます。恋愛あり、シリアルスあり、コメディあり、もうなんでもあります（笑）一部を除いてあとは全てオリジナルです（一部ギリシア神話などから天使、悪魔などの名前、設定などを使っています。）

プロローグ ～追憶～（前書き）

この物語には、バトルシーンがあり、残酷といふかグロイ文章表現がありますので、そういうのが一ガテな方はお気を付けて下さい。

プロローグ ～追憶～

はじめまして、華桜 蓮です。

小説家になろうついでにひのほこれが初めてです。

そして思いつきり初心者です（恥）

文章能力もまだまだですが、それでもよければよろしくお願いします。

プロローグ

「ちよっと、いつまで寝てるの？早く起きないとアタシからのアソーライ朝のお田寝めキッス、しちゃうわよお？」

頭の中に直接声が響く。……朝からこのセコソフ……頭がイタイ
ところか……ちよつとキモイ……

この世の主が本当にキス出来るわけないんだけど、なんかされそつ
ところか……ほとんど無意識で起きる。

「アハ～、起きちゃったのお～…………チツ～

……最後の“チツ”は聞こえなかつたことにして、私は声の主を
手に取る。

私の運命を大きく変えることになつた一番の原因である一本の剣を。

「じお～したの？イヤな夢でも見た？」

「……ちよつと、思に出しちただけ。」

この剣と共にからそれなまつ色々々な事に巻き込まれてきた
わけで。

「……アタシと出会つた口ア、後悔してゐる～
思ふのーつーつーつーつーつーの出で

……いきなりなんて質問するのよ、アナタは。後悔なんて……

「後悔なんてするわけないじゃない。むしろ感謝してるやう。」

何度もキケンでアブナイ目に遭つてたけど、その度に何度も守つて

もうつっていた。

とっても個性的で、かなり変わつてて、とっても強い七人の天使達と、この剣に。

だから後悔なんて一度もしていない。後悔なんて・・・ありえない。

>・・・そう・・・よかつた。 <

・・・てか、勝手にマスターにしといて今更な気もするんだけど・・・まあ良いか。

ベッドから起きてカーテンを開ける。

今日の空は、あの日の空によく似ていた。

第一話「空から剣つて降つてくると思ひますか?」

この小説を読んで下さっている方にお知らせです。

実は私、まだ中学生3年生でして、中学3年の今頃つてことはもちろん受験生でして、小説なんて書いてる暇あつたら受験勉強しろってわけでした・・・

というわけで、休憩時間に書けたら書きますが、投稿がかなり遅れたり、下手したら受験終了日まで休止にさせていただくことになるかも・・・

まあ、受験生なのに小説書いてる私が悪いんですけど。認めますけど。100歩譲つて認めちゃいますけど。

というわけで応援と合格祈願していただけた非常におれしいです。
ありがとうございます。

私、桜月天音は今、眞実を受け入れるか全力で無視して見なかつたことにするかでとても悩んでいます。

さて、今この物語を読んで下さつている方に質問です。第一話のタイトルの通り、空から剣つて降つてくると思ひますか？

・・・降つてきませんよね、普通なら。でも私の田の前にはたつた今空から降つてきたばかりの一本の剣があるんです。

こーなつたらもう・・・

「あー、おそらがきれいだなー（棒読み）」

現実逃避。

だがどんなに全力で無視して見なかつたことにしようが現実逃避しようが、田の前にある剣が幻のように消えて無くなるわけではない。それに・・・

ちよつとそここのアナタ！ボーッとしてないアタシを助けなさいよー地面にすっぽりはまっちゃつて抜けないの！

・・・さてさて、またここでこの物語を読んで下さつている方に質問です。・・・剣つて喋ると思いますか？日本語でも英語でも、中國語でもフランス語でもイタリア語でもなんでもいいですけど・・・人の言葉を、“剣”が喋ると思いますか？

・・・喋りませんよね、普通なら。でも田の前にある剣はフツーにペラペラ喋つちゃつてるし。

この“剣が空から降ってきた事件”発生前のこと。私はいつもようにこの学校、水羽高校に通いつも通りのスクールライフを送っていた。そして昼休み。これもまたいつも通り裏庭に行つた。行つたまではいいが、そこで“剣が空から降ってきた事件”発生。現在に至るというわけである。

* * * * *

卷之三

「今日もハハ天風だな。」

空を見上げてそう呟く。雲一つない晴天。

キラツ

視界の端で何かが光つた。何だろうと思つてじつと見つめていると、何かがだんだんこつちに向かつて近づいてくる。

・・・ ものすゞスピードで。あまりの速さに反応できなー。

ドスツ

何かが思いつき地面に突き刺さった。

・・・剣だつた。

・・・何故に空から剣?と思つた。真実を受け入れるか、全力で無視して見なかつたことにするか迷つてゐるうちに、

ちよつとそこのアナタ!ボーッとしてないでアタシを助けなさいよ!地面にすっぽりはまつちゃつて抜けないの!

頭の中に直接声が響く。

・・・喋つた・・・喋つたよこの剣・・・

ちよつとそこのアナタ!まさかこのままアタシをここに置いていくつもり!イヤーッお願いだから助けてええ!ヘルプミニイイイイツ!

・・・うるせいやかましい。今私の頭の中、ヘルプミニイイイツ!
・・・・・ヘルプミニイイイツ!てめつちゃHローしてるんですけど。

とつあえずこれ以上騒がれると迷惑なんで、剣の柄に手をかけて思いつきり引き抜く。

スポーツ

抜けた。そしてフワリと浮いた。

・・・剣が浮いた・・・

ふう〜、助かつたあ〜。・・・つて・・・いにやあああああああああつ!

いにやあああああああああああああつ！・・・・・　いにやあああああああああつ！と私の頭の中でもまたエコー。・・・　てか、叫び声がオカシイ。

ちよつとアナタ、アタシの念話が聞こえぬのへ。
——

「・・・ キルクコアで闘うべきだね」とナギ。

はっ！思わず声に出して言つてしまつた！裏庭うりにわが人ひとがあんまりこない場所でよかつた。アブナイアブナイ。

ウソッ！信じらんないっ！アタシの念話が聞こえるなんてっ！

。丁度私は別に信じてもらわなくとも全然OKなんですね

・・・アナタ、名前は？

「 桜月天音。」

桜月天音・・・イイ名前ね。

さればど一も。

決めたつ！決めたわつ！

・・・そろそろ疲れてきた・・・

アナタをアタシのマスターにするわ！桜月天音！

・・・はい？What？Why？Wait？Wait？

「・・・あの、それってビーグーイミですか？」

そのまんまのイミよ！今からアナタはアタシのマスター。アタシはアナタのモノになつたつてコトよ！

・・・Why？Wait・・・ウエーハーハイトツツツ！

「ちょっと待つて！Why？何故私なの？Wait！待つて！銃刀法違反っ！」

んじや、
契約開始

つてちょっと待てええいつ！話を聞けええいつ！

万物を統べ神々の頂点に達する者より授かりし力を汝に与える

この契約は汝の生命の灯火が消えゆく瞬間まで継続される

その瞬間まで 我は汝に力を貸そう

汝は我と共に

我は汝と共に

汝が望む勝利を 我は与えよつ

田を開けていられないほどの強烈な光がほとばしる。勝手に契約するなあああああっ！という私の叫び声もゴオオオオオツという爆風の音に掩き消される。しばらくすると光と爆風が止んだ。

・・・あの剣の姿が何処にもない。・・・一体何が起きたの？

契約完了ね

姿は見えないけど、念話だけはしつかり聞こえる。

両手の甲を見なさい

言われた通りに見る。そこには不思議な模様というか……明らかに魔方陣っぽいものが描かれていた。

魔方陣がアタシとの契約の印よ アタシのコトは……そうねえ。
・ “恋華十六夜桜” って呼んで？

恋華十六夜桜つて……あなたどー聞いても“男”よね？だつて聞こえてくる念話がめっちゃ低音だし。しかも“アタシ”つて……まさか……オカマ？

あ、今アタシのコト“男”とか思つたでしょ！契約するとマスターと繋がるコトになるから多少はマスターの感情とか口の声が聞こえたりするんだから！

・ …なんつー機能持つてんのよ …

声とか男でも、口は立派な乙女だもの？

・ …オカマ確定。

はー、もうなんか色々と疲れる……つて、

「……ちょっと待つて。この契約の印つて、私以外に見えたりするの？」

そりやー！それが一番重要よ！こんなのが世間一般から見れば“イレズミ”（彫つてないし墨でもないから違つけど）にしか見えないわ！

大丈夫よ……たぶん。

・・・最後の三文字を私は聞き逃さなかつた。

「“たぶん”つて何よ“たぶん”つて！」

だあつてえー、アタシにとつてこれが“初”的^{けいやく}契約だつたんだものー。つまりいー、なにもかも初めてだからあ、・・・アタシにもよくわからなあーい

・・・“よくわからなあーい”ですむかああああつ！

とりあえず、試しに誰かに見せてみれば？

恋華十六夜桜・・・もつと長くてメンンドクサイから以下恋華で呼ぶことにするけど、恋華が言い終わつたと同時にちょうど昼休み終了のチャイムが鳴つた。教室に戻つて、親友の瑞樹瑠奈やクラスメイト達に見せてみたけど、どうやら私にしか見えていないみたいだからとつても安心した。

「席に着けー、授業を始めるべー。」

社会・歴史担当の尾崎竹田先生が来た。私は授業そっちのけで色々考えていた。

この、私と恋華十六夜桜との出会いが

私と、^{そら}天空と大地の運命を

大きく変えることになるとは

このときの私には

まったく想像もできなかつた。

そして、後に私は知る事になる。

恋華十六夜桜の

存在理由を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5489y/>

神話なう。

2011年11月23日13時54分発行